

# 新潟中越沖地震対策ニュース

## No. 1

2007年7月21日

新潟県商工団体連合会 025-274-9661

中越大震災の記憶も覚めない7月16日午前10時13分、新潟中越沖地震が発生し、柏崎市を中心に大きな被害が出ています。中越大震災の時も大きな被害を受け、復興の途上でまたも大きな被害を受けられた方もあり、心からお見舞い申し上げます。今回の地震を引き起こした断層が「東京電力柏崎原発の直下にかかる可能性」が高いことも明らかになってきており、これまでの地震災害と違った重大な問題も出てきています。

## 大谷会長を先頭に役員・事務局員が会員の安否・被災状況の確認に

地震の翌日、電気、水道、ガスなどライフラインがすべてストップ状態で電話連絡もつかない状態が18日まで続いていました。

現地の民商は、携帯電話等で連絡を取り合い、震災直後から役員・事務局員が事務所を集まり、会員の安否・被災状況の確認の活動を開始。あっちこちで家屋・店舗が倒壊し、倒壊した建物が道路まで覆い被さり、道路は亀裂が入り、陥没、波うち状態で、思うように車が通れない状態の中での必死の確認作業が行われました。

7月20日現在、会員さんの被害状況は、住宅が全壊した会員7人、大規模半壊4人、半壊16人、一部損壊57人、店舗が全壊8人、店舗の大規模半壊3人、半壊10人、一部損壊43人となっています。まだ50名近くの会員さんとの連絡が取れない状態にあります。

今回の中越沖地震の被災状況は20日現在、住宅の全壊が952戸、大規模半壊27戸、半壊395戸、一部損壊4786戸、住宅以外の被害は2147棟となっています。日を追うごとに被害が大きくなってきています。



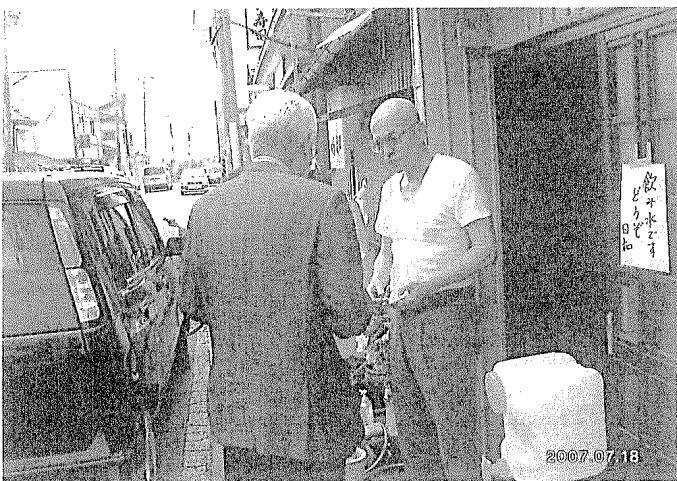
## 地震から3日目の18日、

## 全商連の国分稔会長が柏崎民商の被災者を見舞い、激励訪問 地震の翌日に能登新商連会長・森本副会長

## 飲料水やガスコンロなど支援物資を持って柏崎民商に

地震発生翌日に能登新商連会長・森本副会長を先頭に支援物資を持って柏崎民商を訪問し、今後の救援活動の進め方も含めて相談し、全国・全県に支援を呼びかけて被災者の支援活動をすすめることを確認。能登会長は、3年間に2度まで震災にあわれた柏崎民商の皆さんに対するお見舞いと地震発生から不眠不休で会員の安否確認や救援活動で奮闘されている役員・事務局員を激励し、今後の対策も含めて懇談しました。役員・事務局からは自らの被災した時の様子や訪問した会員の様子などが生々しく語られました。

「この前の中越地震の時とは揺れ方が違った」「被害の程度も前回の比ではない」「何で3年も経たないのにこんな地震が…」など突然の地震で自治体の対応も行き届かない中で、ライフラインが寸断され、食料があっても煮炊きが出来ない中で、避難所や野外での生活を余儀なくされている中で、多くの会員さんが地域の人々を励まし、民商魂を発揮し、大きな役割を果たしていることも報告されました。



ラーメン屋のAさんは、電気も止まっている中で冷蔵庫にある食品もこのままではだめになる、それなら日頃の地域の皆さんにご恩返しと冷蔵庫の食材を全部無償で放出し、食べ物を作って地域の被災者に提供。居酒屋のHさんは、地域の人達が水道がストップして飲料水や洗い物にも困っていることを察して、自家用の地下水道を出しっ放しにして地域の人達に利用してもらうことにすると同時に、飲料水をポリタンクで湧き水を大量に汲んで来て地域の人がいいつでも飲めるようにする。そして洗濯が出来ないで困っていることが解って、電気屋さんに行って、わざわざ洗濯機を自分で買って来て、自家水道の隣に設置し、誰でも自由に利用してもらうようにするなど、自らも大変な被害を受けている中で「日頃地域のみんなに支えてもらっているから…」と「民商魂」を発揮し、地域の被災者を励まし、地域に根ざした中小業者ならではの役割を発揮している会員の活動に胸が熱くなる思いでした。

地震から3日目に全商連・国分稔会長が急遽、被災地を訪問し、柏崎民商の役員・事務局員の労をねぎらい、事務局員の案内で中心商店街なども含め、被害が大きかった地域をつぶさに視察し、被災者を訪問し、お見舞い・激励してまわりました。

## 商店街の空洞化が、地震での被害を大きくしているのでは？

3年前の中越大震災との違いは、周辺部での被害もあるが柏崎市の中心部の商店街を含めた、中心部に被害が集中していることです。柏崎の商店街のところには耐火構造の土蔵も多く、そのほとんどが今回の震災で倒壊し大きな被害となっています。比較的小雪の地域で、住宅の構造材なども豪雪地と比べて細く、「筋交い」が少ない、潮風などもあり、耐火構造の瓦屋根のため重量もあり、横揺れに弱いために被害が大きくなったのではということが言われています。

被害を受けた商店街を歩いていると、倒壊した店舗・土蔵などの多くが大型店などの進出によって、シャッターを下ろしているところが多いことも多く、商店街の空洞化が地震災害も大きくしているのではないかと感じられました。